

秋月の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員の皆様にはコロナ禍の中、恙なくお過ごしのことかと大慶に存じます。先月県内の新型コロナ新規感染者数も漸く一桁台となり、何とかピークアウトしたかのような感がありますが、大阪や沖縄等は未だ終息は見えないようです。

さて9月の自衛隊関連行事等も全て規模縮小や部隊内だけでの開催となり誠に寂しい限りですが、この調子で新規感染者の減少が続けば年末行事等にはまだ間に合うのかも知れません。

ところで去る8月15日に齋行された「献灯みたま祭併せ終戦75周年記念祭」の報告書の中に、宮崎県護国神社には明治維新より先の大戦まで、また戦後に自衛官として国に殉じられた方々あわせて41,874柱の宮崎出身のご英霊を奉齋しているとの記載がありました。

また靖国神社の全ご祭神は246万6千余柱と仄聞しており、普段から全国規模の1%と揶揄される当県に、祖国防衛の為に身命を賭して戦われた1.7%の郷土のご英霊がおられると云う事実は、一県民とすれば誠に誇らしいと感じます。

先月20日に鹿児島県南さつま市の加世田にある「万世特攻記念館」を訪ねたところ、鹿児島市や鹿屋市では「蔓延防止措置」の為に全ての公的機関がクローズの中、思いもよらずここだけは入館が許され、展示内容の悲壮感に打ち震え、又しても涙した次第です。

特攻基地と云えば「知覧」や「鹿屋」が余りにも有名ですが、万世飛行場は僅か4ヶ月のみ沖縄戦の為に稼働した「幻の特攻基地」と呼ばれ、弱冠17才から20才前後の若者を中心に201名が南溟の大空に散華されたとのことでした。

今回の鹿児島行は、南九州各地の特攻基地から出撃した日本国内のみならず、遠く台湾や朝鮮半島出身者など全てのご英霊に、哀悼の誠を捧げた慰霊の旅だったような気がします。

皆さんがこの支部長通信を読まれる頃は、日本の新たなリーダーが誕生しており、最も早ければ11月7日には衆議院総選挙が実施される予定であり、新総理大臣の下に「新日本丸」の航海が始まります。

今月同封の産経新聞コラム「正論」執筆者織田邦男元空将が冒頭に、かつて「改めて法律を調べたら首相である自分が自衛隊の最高指揮官であることを知った」と言う総理大臣がいた事を指摘されておられますが、まさか今回出馬されておられる4名の自民党総裁候補者の中にそのような不見識者はおられぬ事を祈りたいものです。

今月も小川先生のタイムリーなメルマガの中よりお許しを得て、その一部を転載致しますので是非ともご一読の上、近々行われる予定の衆議院総選挙の際に、参考にでもして頂ければ幸甚に存じます。

・日本の首相の相手は世界だぞ！

自民党総裁選、いよいよ熱気を帯びてきましたが、その一方、政策に関する**候補者の発言**には知識などの**レベルを露呈**するケースが目立つようになりました。

13日に**北朝鮮**が初の長距離巡航**ミサイル**を発射すると、そこに記者団の質問が集中することになった訳ですが、まず**岸田文雄**・前政調会長はとってつけたように発言しました。

「**敵基地攻撃能力**は有力な選択肢だ。国民の命や暮らしを守るため、ぜひ議論したい」

河野太郎・ワクチン担当相は次の姿勢を示しました。

「(北朝鮮は移動式発射台を持っており) **敵基地攻撃**は随分前の議論だ。日米同盟強化による抑止力向上とともに軍事力で戦う以前にサイバー戦や情報戦、グレーゾーン事態にどう対応するかという時代になっている」

高市早苗前総務相は、一見したところ知見があるかのような発言をしています。

「波状攻撃されたら**守り切る能力がない**。日本が**精密誘導ミサイル**を撃つ可能性がある、という抑止力を持つべきだ」

しかし、安全保障問題に高い知識を持った**記者**がいて、具体的に**突っ込んできたら**、3人の候補者ともしどろもどろになったことは間違いありません。

高市氏は同時に**サイバー攻撃**を可能にする**新法**を制定すると発言していますが、**日本のサイバー防御能力**が先進国で最下位レベル、米国に比べて20年遅れ、韓国からも10年遅れていることを知っていれば、日本の水準を**早急に向上させる取り組み**をするという考えを示さなければなりません。

なぜ私がこんなことを言うのか。「そんな細かいことを言う必要はないじゃないか」との声が出てきそうですが、それは日本の首相について考えたことがない証拠です。

日本の首相は、世界有数の国のリーダーです。あらゆる政策について、世界と互角に渡り合っていかなければならない立場です。そのためには優れたスタッフを備え、細かいことはともかく、それなりに咀嚼した発信をする必要があります。

3 人とも、あるいはこれから立候補を表明する人も、世界各国の政府と情報機関から細かく観察され、分析され、処方箋を準備されているのです。首相になった途端に先手を打ってこられることを自覚してほしいものです。 (小川和久)

小川先生のご指摘通りとしたら我が国の防衛力は本当にお寒い限りで、現在の規模や予算、そして「平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼して我らの安全と生存を保持しよう」と決意したあの「憲法」で、日本及び日本人の生命・財産を守れるのか、本当に不安になります。

将に日本丸の新船長は近隣の中国やロシアに北朝鮮、或いは韓国等が本当に「平和を愛する諸国民」なのか？果たしてその「公正と信義」は本当に信頼できるのか？等々しっかり情報収集及び分析した上で、打つべき手を考え、出来ることから直ちに着手して頂かねばなりません。

それにしても国際政治の不透明感と先読みの鋭さにはいつも驚かされ放しですが、日米豪に印度を加えた「クワッド」や米英豪の「オーカス」等はかつての ABCD 包囲網を彷彿とさせますし、四面楚歌の中国はロシアや北朝鮮、そしてイランやアフガンなどの枢軸同盟に走らざるを得ず、それでも英海軍の最新鋭空母「Q・E」がその打撃群を随伴して南・東シナ海を遊弋し、日米欧海軍が大規模合同軍事演習展開すれば、中国の威信や面目は丸つぶれとなります。

そして中国が TPP 加盟に手を挙げた途端に、すかさず台湾も TPP 加盟申請を行う外交タイミングの妙を見るに付けてもその駆け引きの凄まじさに驚嘆し、全てに遅れをとる日本外交のお粗末さも、みんな「憲法」のせいと愚痴の一つも言いたくなるとは思いませんか？

「蔓延防止措置」も 9 月末で解除されたなら、皆さん「ニシタチ」でお会い致しましょう。(笑)

令和3年10月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉和彦